令和３年度地域包括支援センター（高齢者相談センター）事業計画書及び予算について

令和3年11月11日
令和3年度第1回介護保険運営協議会資料
報告事項（２）

（１）各高齢者相談センター事業計画書

令和3年度　谷津高齢者相談センター事業計画書　（社会福祉法人慶美会）

重点運営事項

重点運営事項		現在の取り組み	良い点・悪い点とその理由	課題	3年度の取組計画	具体的な取り組み
1	地域ケア会議の充実	コロナ禍での開催となったため回数や人数を絞り、感染予防に努めた形で1回、開催した。内容はコロナ禍での各施設や事業所、病院の状況や取り組みを知り、情報を共有し利用者や地域への発信とした。個別ケア会議は予防、困難ケースとも開催できなかった。	良い点 ・開催できた事で日ごろの取り組みの現状を知り、多職種の想いの共有ができ、士気を高めるきっかけになった。 ・やれる範囲で開催してもらい関係者と疎遠にならずに済んだという声とが聞け、支援者側の繋がりの重要性を周知できた。 反省点 ・会議参加者からはグループワーク時間が少なく、開催の意味を問う声があり、コロナ禍で、対話を切望する声に応えられなかった。 ・地域対応へ消極的な地域に対し、工夫しながら活動している地域の事を伝えたが、意欲を促進させることができなかった。 ・個別ケア会議の開催ができなかった。	・コロナ禍で行う圏域会議のテーマ設定と会議の持ち方。活発にグループワークで意見交換できる環境の設定。 ・地域、医療、福祉の連携強化と実際のケースに活かせるネットワーク作り。	・圏域のケア会議はコロナ禍でも感染予防に努め開催する。 ・テーマは個別ケースの中からスクリーニングし、第2層生活支援コーディネーターとも話し合って選定していく。 ・コロナ禍でも工夫して活動していた地域からはやってみた感想など会議の中で事例として紹介し他の地域でも周知していけるようにする。 ・個別ケア会議は随時開催するが、連携の必要なケースや困難なケースばかりでなく、地域との情報共有など幅広く行っていく。 ・介護予防個別ケア会議は行政と連携し、コロナ禍でもできる形ですすめていく。	・圏域会議は年2回、コロナの状況に合わせて開催の形も対面だけと考えず柔軟に行っていく。 ・テーマは過去に抽出された課題で、解決されていないもの、議論されていないものも整理し、協議体と連動しながら選定していく。 ・個別ケア会議は地域のケアマネジャーに声をかけ、困っているケーズについて、検討または情報共有の場として活用してもらい、ケース対応に活かせるようにする。 ・介護予防の個別ケア会議は常に対象となる利用者なのかを視野に入れて相談対応し部署内で周知する。（1回開催　2事例を予定）
2	生活支援体制整備事業に関する取組み	・コロナで活動が中止となったサロン、てんとうむし体操の利用者への実態把握として第2層生活支援コーディネーターと協働してアンケート調査の実施をした。その結果を踏まえ、機関紙特別号の作成と配布をおこなった。 ・谷津3丁目のURでURコミュニティーが企画し高齢者支援課が協力したてんとうむし体操の体験会に参加協力したことでURコミュニティと繋がりを持てた。 ・今後の展開を考え新たに転倒予防推進員の担い手に声かけし、参加を促した。 ・圏域内の高齢化率が高い谷津4丁目地域の集合住宅の管理人との連携を図るため相談センターのチラシ等のファイルを配布。	良い点 ・サロン、サークル利用者へのアンケート結果により思っていた以上に前向きに過ごせていることがわかった。 ・アンケートの配布、回収に地域の担い手の方が積極的に協力して下さり、かなりの数の配布、高い回収率となった。担い手との繋がりも実感できた。 ・URコミュニティとイベントができたことでかねてからの希望であったパークタウンのてんとうむし体操立ち上げを本格化できる。 ・谷津4丁目を中心にマンションの管理人にファイルを配布したが、どなたも協力的で、今後の関係づくりをスタートできた。 反省点 ・アンケート実施がコロナ禍の初期のころであったため長期化した現在の様子とは異なる。 ・センターのチラシを全戸配布したが、相談増加には今のところ繋がっておらず、他の方法の検討が必要。	・地域の担い手の高齢化している。 ・担い手がコロナ禍で活動自体に消極的。 ・コロナ禍で行えない活動のやり方に工夫が必要（集いを屋外にする、少人数にする、Zoomを活用） ・センター周知の方法は関心をもってもらえる取り組みからでないと拡がらない。	・転倒予防体操推進員をはじめ地域の活動の担い手の増員を図る。 ・地域の居場所作り、てんとうむし体操の新規立ち上げの検討。 ・既存の集いの再開とコロナ禍でも開催できる集いの検討。 ・センターの周知活動の促進。 ・第2層生活支援コーディネーターと一緒に第2層協議体の内容の理解をすすめ、地域住民と課題解決へむけて話し合える内容、会議の持ち方を工夫する。	・担い手の不足、高齢化が懸念されるため、引き続き担い手募集の掲示を行うことと現在の担い手の方への声掛けに加え、町会へも声掛けしていく。 ・昨年、行ったパークタウンでのてんとうむしイベントをきっかけとし、パークタウン内に新しいてんとうむし体操のサークル立ち上げについて、第2層生活支援コーディネーターと話し合いを進めていく。 ・包括主催の集いの再開に向けて、感染予防に努め内容も縮小して行うことと、屋外でできるラジオ体操等開始に向けて動く。 ・谷津4丁目の各集合住宅の集会所を開拓し、介護保険、権利擁護、認知症、介護予防の出前講座や出張相談行い、高齢者相談センターの活動を知っていただく。 ・第2層協議体は第2層生活支援コーディネーターとともに開催に向けて準備を進め、地域住民に協議体の目的の理解をしていただき、有意義な話し合いができるようにしていく。
3	認知症総合支援事業に関する取組み	・コロナで出かける機会や人との交流の減少の影響からか認知症の相談が増え、その方に合わせた支援を行った。 ・認知症サポーター養成講座の開催ができなかった。 ・キャラバンメイトの地区会を行い活動へむけて情報交換ができた。 ・高齢化率の高い4丁目の集合住宅へ地区の民生委員と共同で認知症あんしんガイドの全戸配布をおこなった。	良い点 ・キャラバンメイトの地区会が開催でき、情報交換ができた。 ・集合住宅の管理人、民生委員さんの関心が高く、全戸に認知症あんしんガイドの配布ができた。 反省点 ・コロナで認知症サポーター養成講座が開けず啓発活動ができなかった。キャラバンメイトのモチベーションも下がった。	・認知症に係る相談が増加していく中、地域で見守り、対応していくサポーターが必要だが、コロナ禍でサポーター養成講座が開けなかったため啓発活動が滞っている。	・認知症の理解を進めるための啓発活動を行う。 ・認知症サポーター養成講座を受講した方がその後の活動につながるしくみを認知症地域支援推進員、キャラバンメイトとともに検討していく。 ・認知症カフェの再開の支援、小規模認知症カフェの立ち上げ検討。	・コロナ禍でも認知症の啓発活動として認知症サポーター養成講座の開催を行うためにZoomも検討していく。 ・認知症サポーター養成講座受講者にご近所でサポーターとして活動していただくための仕組みを認知症地域支援推進員、キャラバンメイトとともにキャラバンメイト地区会などを利用して検討していく。 ・コロナ禍で中止しているオレンジカフェの再開の支援や開催できない場合にオンラインでのカフェの開催の実現に向けて開始を検討していく。